

2019 年度大学入試センター試験 解説 〈数学Ⅱ・B〉

第1問

〔1〕

$$f(\theta) = 3 \sin^2 \theta + 4 \sin \theta \cos \theta - \cos^2 \theta$$

(1) $\sin 0 = 0, \cos 0 = 1, \sin \frac{\pi}{3} = \frac{\sqrt{3}}{2}, \cos \frac{\pi}{3} = \frac{1}{2}$

を用いて,

$$f(0) = 3 \cdot 0^2 + 4 \cdot 0 \cdot 1 - 1^2 = \underline{\underline{-1}} \quad \dots\dots \text{アイ}$$

$$f\left(\frac{\pi}{3}\right) = 3 \cdot \left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 + 4 \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{1}{2} - \left(\frac{1}{2}\right)^2$$

$$= \frac{9}{4} + \sqrt{3} - \frac{1}{4}$$

$$= \underline{\underline{2}} + \sqrt{3} \quad \dots\dots \text{ウ, エ}$$

(2) 2倍角の公式より,

$$\cos 2\theta = 2 \cos^2 \theta - 1 = 1 - 2 \sin^2 \theta, \sin 2\theta = 2 \sin \theta \cos \theta \quad \dots\dots (*)$$

よって,

$$\cos^2 \theta = \frac{\cos 2\theta + 1}{2} \quad \dots\dots \text{オ, カ}$$

また, (*)より,

$$\sin^2 \theta = \frac{1 - \cos 2\theta}{2}$$

であるから,

$$f(\theta) = 3 \cdot \frac{1 - \cos 2\theta}{2} + 2 \cdot \sin 2\theta - \frac{\cos 2\theta + 1}{2}$$

$$= \underline{\underline{2}} \sin 2\theta - \underline{\underline{2}} \cos 2\theta + \underline{\underline{1}} \quad \dots\dots (**)$$

(3) ①, すなわち(**)に, 三角関数の合成を用いると,

$$f(\theta) = 2\sqrt{2} \left(\sin 2\theta \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} - \cos 2\theta \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} \right) + 1$$

$$= 2\sqrt{2} \left(\sin 2\theta \cos \frac{\pi}{4} - \cos 2\theta \sin \frac{\pi}{4} \right) + 1$$

$$= \underline{\underline{2\sqrt{2}}} \sin \left(2\theta - \frac{\pi}{4} \right) + 1 \quad \dots\dots \text{コ, サ, シ}$$

ここで, $0 \leq \theta \leq \pi$ より, $2\theta - \frac{\pi}{4}$ のとり得る値の範囲は,

$$2 \cdot 0 - \frac{\pi}{4} \leq 2\theta - \frac{\pi}{4} \leq 2 \cdot \pi - \frac{\pi}{4}$$

すなわち,

$$-\frac{\pi}{4} \leq 2\theta - \frac{\pi}{4} \leq \frac{7}{4}\pi \quad \dots\dots(\star)$$

よって、右図より、 $-1 \leq \sin\left(2\theta - \frac{\pi}{4}\right) \leq 1$ であるから、

$$-2\sqrt{2} + 1 \leq f(\theta) \leq 2\sqrt{2} + 1$$

ここで、 $\sqrt{2} = 1.414 \dots\dots$ に注意すると、 $1.4 < \sqrt{2} < 1.5$ であるから、

$$2 \times 1.4 + 1 < 2\sqrt{2} + 1 < 2 \times 1.5 + 1$$

すなわち、

$$3.8 < 2\sqrt{2} + 1 < 4$$

であるから、 $f(\theta)$ がとり得る最大の整数の値 m は $m = \underline{\underline{3}}$

……ス

また、

$$f(\theta) = 3$$

すなわち、

$$2\sqrt{2} \sin\left(2\theta - \frac{\pi}{4}\right) + 1 = 3$$

より、

$$\sin\left(2\theta - \frac{\pi}{4}\right) = \frac{1}{\sqrt{2}}$$

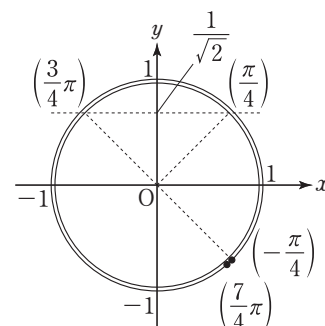
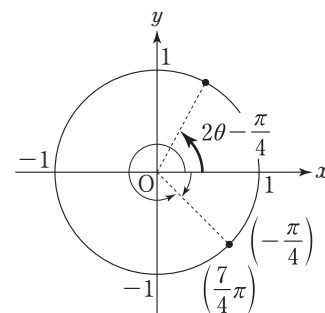
となる θ は、 $2\theta - \frac{\pi}{4}$ のとり得る値の範囲(☆)に注意すると、

$$2\theta - \frac{\pi}{4} = \frac{\pi}{4} \quad \text{または} \quad \frac{3}{4}\pi$$

よって、

$$\theta = \underline{\underline{\frac{\pi}{4}}}, \underline{\underline{\frac{\pi}{2}}}$$

……セ、ソ



[2]

②について、真数条件により、

$$x+2>0 \text{ かつ } y+3>0$$

すなわち、 x, y のとり得る値の範囲は、

$$\underline{x > -2, y > -3} \quad (\dots\dots \textcircled{2}) \quad \dots\dots \text{タ}$$

ここで、底の変換公式により、

$$\log_4(y+3) = \frac{\log_2(y+3)}{\log_2 4} = \frac{\log_2(y+3)}{\log_2 2^2} = \frac{\log_2(y+3)}{2 \log_2 2} = \underline{\underline{\frac{\log_2(y+3)}{2}}} \quad \dots\dots \text{チ}$$

である。よって、②から、

$$\log_2(x+2) - 2 \cdot \frac{\log_2(y+3)}{2} = -\log_2 2$$

$$\log_2(x+2) = \log_2(y+3) - \log_2 2$$

$$\log_2(x+2) = \log_2 \frac{y+3}{2}$$

よって、

$$x+2 = \frac{y+3}{2}$$

すなわち、

$$y = \underline{\underline{2x+1}} \quad \dots\dots \textcircled{4} \quad \dots\dots \text{ツ, テ}$$

次に、④を③に用いると、

$$\left(\frac{1}{3}\right)^{2x+1} - 11\left(\frac{1}{3}\right)^{x+1} + 6 = 0$$

$$\frac{1}{3} \left\{ \left(\frac{1}{3}\right)^x \right\}^2 - \frac{11}{3} \left(\frac{1}{3}\right)^x + 6 = 0$$

であるから、 $t = \left(\frac{1}{3}\right)^x$ とおくと、

$$\frac{1}{3}t^2 - \frac{11}{3}t + 6 = 0$$

より、

$$t^2 - \underline{\underline{11t}} + \underline{\underline{18}} = 0 \quad \dots\dots \textcircled{5} \quad \dots\dots \text{トナ, ニヌ}$$

ここで、 $x > -2$ であるから、

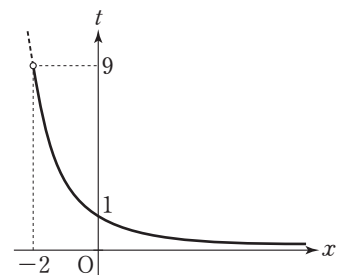
$$t = \left(\frac{1}{3}\right)^x \quad (x > -2)$$

のグラフ(右図)より、 t のとり得る値の範囲は、

$$\underline{\underline{0}} < t < \underline{\underline{9}} \quad \dots\dots \textcircled{6} \quad \dots\dots \text{ネ, ノ}$$

したがって、⑤より、

$$(t-2)(t-9) = 0$$



$$t=2, 9$$

であるから、⑥の範囲で⑤を解くと、 $t=\underline{\underline{2}}$ ……ハ

以上より、

$$2=\left(\frac{1}{3}\right)^x=3^{-x}$$

であるから、両辺の3を底とする対数をとると、

$$\log_3 2=\log_3 3^{-x}=-x$$

すなわち、

$$x=-\log_3 2=\log_3 2^{-1}=\log_3 \frac{1}{2} \quad \text{……ヒ, フ}$$

また、④にこれを用いて、

$$y=2\log_3 \frac{1}{2}+1=\log_3 \left(\frac{1}{2}\right)^2+\log_3 3=\log_3 \left\{\left(\frac{1}{2}\right)^2 \cdot 3\right\}=\log_3 \frac{3}{4} \quad \text{……ヘ, ホ}$$

第2問

(1) $f(x) = x^3 + px^2 + qx$ より,

$$f'(x) = 3x^2 + 2px + q \quad \dots\dots(*)$$

いま, $f(x)$ が $x = -1$ で極値をとるので, $f'(-1) = 0$

……ア

よって,

$$3(-1)^2 + 2p(-1) + q = 0 \quad \text{すなわち, } 2p - q = 3$$

また, このときの極値が2より, $f(-1) = 2$ であるから,

$$(-1)^3 + p(-1)^2 + q(-1) = 2 \quad \text{すなわち, } p - q = 3$$

よって,

$$\begin{cases} 2p - q = 3 \\ p - q = 3 \end{cases} \text{ を解いて } \begin{cases} p = 0 \\ q = -3 \end{cases}$$

……イ

……ウエ

これを $f(x)$, および(*)に用いると,

$$f(x) = x^3 - 3x$$

$$f'(x) = 3x^2 - 3 = 3(x+1)(x-1)$$

となり, $f(x)$ の増減表は, 右のようになる。

したがって, $f(x)$ は,

$$x = 1 \text{ のとき}$$

……オ

$$\text{極小値 } f(1) = 1^3 - 3 \times 1 = -2$$

……カキ

をとる。

(2) $D: y = -kx^2$

について,

$$y' = -2kx$$

であるから, $A(a, -ka^2)$ における D の接線 l の傾きは,

$$-2ka$$

よって, l の方程式は,

$$y = -2ka(x - a) - ka^2$$

すなわち,

$$y = -2kax + ka^2 \quad \dots\dots\textcircled{1}$$

……クケ, コ

ここで, l と x 軸の交点の x 座標は,

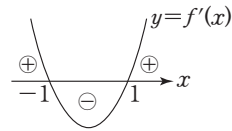
$$0 = -2kax + ka^2 \quad \text{かつ } a > 0$$

より,

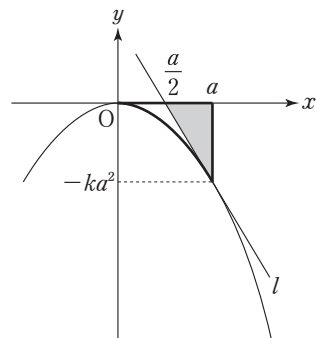
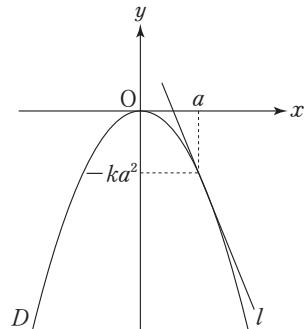
$$x = \frac{a}{2}$$

……サ, シ

である。よって, 右図の網目部分の三角形の面積を T とすると,



x	…	-1	…	1	…
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	2	↘		↗



$$T = \frac{1}{2} \cdot ka^2 \cdot \left(a - \frac{a}{2}\right) = \frac{k}{4}a^3$$

また、 D と x 軸および直線 $x=a$ で囲まれた図形は、図の太線の内部であり、その面積は、

$$\int_0^a kx^2 dx = \left[\frac{k}{3}x^3 \right]_0^a = \frac{k}{3}a^3 \quad \dots\dots \text{ス, セ}$$

であるから、 D と l 、および x 軸で囲まれた部分の面積 S は、

$$\begin{aligned} S &= \frac{k}{3}a^3 - T \\ &= \frac{k}{12}a^3 \quad \dots\dots \text{ソタ} \end{aligned}$$

(3) 点 $A(a, -ka^2)$ が曲線 C 上にあるとき、

$$-ka^2 = a^3 - 3a \quad \text{かつ} \quad a > 0 \quad \text{より,} \quad k = \frac{3}{a} - a \quad \dots\dots \text{チ, ツ, テ}$$

l と C の接点の x 座標が b であるから、

$$f'(b) = 3b^2 - 3 = 3(b^2 - 1)$$

よって、 l の方程式は b を用いて、

$$y = 3(b^2 - 1)(x - b) + b^3 - 3b$$

すなわち、

$$y = \frac{3}{a}(b^2 - 1)x - 2b^3 \quad \dots\dots \text{②} \quad \dots\dots \text{ト, ナ, ニ}$$

と表される。

②の右辺 $g(x)$ について、

$$\begin{aligned} f(x) - g(x) &= x^3 - 3x - \{3(b^2 - 1)x - 2b^3\} \\ &= x^3 - 3b^2x + 2b^3 \end{aligned}$$

$$f(b) - g(b) = 0$$

より、 $f(x) - g(x)$ は $x - b$ を因数にもつから、

$$\begin{aligned} f(x) - g(x) &= x^3 - 3b^2x + 2b^3 \\ &= (x - b)(x^2 + bx - 2b^2) \\ &= (x - b)^2(x + 2b) \quad \dots\dots \text{又, ネ} \end{aligned}$$

と因数分解される。

$y = f(x)$ と $y = g(x)$ の交点が $A(a, -ka^2)$ であるから、

$$(x - b)^2(x + 2b) = 0$$

の $x = b$ でない方の解が a より、

$$a = -2b$$

①と②は共に接線 l を表しているのだから、傾きを比較することにより、

$$-2ka = 3(b^2 - 1)$$

これに、 $k = \frac{3}{a} - a$ 、 $b = -\frac{a}{2}$ を代入すると、

$$-2a\left(\frac{3}{a}-a\right)=3\left\{\left(-\frac{a}{2}\right)^2-1\right\}$$

であるから、

$$-6+2a^2=\frac{3}{4}a^2-3$$

すなわち、

$$a^2=\underline{\underline{\frac{12}{5}}}$$

……ノハ, ヒ

よって、

$$ka=3-a^2=3-\frac{12}{5}=\frac{3}{5}$$

であるから、このときの S の値は、

$$S=\frac{k}{12}a^3=\frac{1}{12}\cdot ka\cdot a^2=\frac{1}{12}\cdot\frac{3}{5}\cdot\frac{12}{5}=\underline{\underline{\frac{3}{25}}}$$

……フ, ヘホ

である。

第3問

$\{T_n\}$ の階差数列が $\{S_n\}$ であるから、

$$T_{n+1} - T_n = S_n \quad \text{すなわち、} \quad T_{n+1} = T_n + S_n \quad \dots\dots(*)$$

であることに注意する。

(1) $S_2 = 3 + 3 \cdot 4 = \underline{\underline{15}} \quad \dots\dots \text{アイ}$

また、 $(*)$ で $n=1$ として、

$$T_2 = T_1 + S_1 = (-1) + 3 = \underline{\underline{2}} \quad \dots\dots \text{ウ}$$

(2) S_n は初項が 3、公比が 4 の等比数列の初項から第 n 項までの和であるから、

$$S_n = \sum_{k=1}^n 3 \cdot 4^{k-1} = \frac{3(4^n - 1)}{4 - 1} = \underline{\underline{4^n - 1}} \quad \dots\dots \text{エ, カ}$$

($\dots\dots \text{①}$) $\dots\dots \text{オ}$

また、 $n \geq 2$ のとき、 $(*)$ より、

$$\begin{aligned} T_n &= T_1 + \sum_{k=1}^{n-1} S_k \\ &= (-1) + \sum_{k=1}^{n-1} (4^k - 1) \\ &= -1 + \frac{4(4^{n-1} - 1)}{4 - 1} - (n-1) \end{aligned}$$

よって、

$$T_n = \underline{\underline{\frac{4^n}{3} - n - \frac{4}{3}}} \quad (\text{これは } n=1 \text{ のときも成り立つ。}) \quad \dots\dots \text{キ, ケ, コ, サ}$$

($\dots\dots \text{①}$) $\dots\dots \text{ク}$

(3) 数列 $\{a_n\}$ が

$$a_1 = -3, \quad na_{n+1} = 4(n+1)a_n + 8T_n \quad (n=1, 2, 3, \dots\dots) \quad \dots\dots \text{①}$$

を満たすとき、

$$b_n = \frac{a_n + 2T_n}{n}$$

とおくと、 $\{b_n\}$ の初項 b_1 は、

$$b_1 = \frac{a_1 + 2T_1}{1} = -3 + 2 \cdot (-1) = \underline{\underline{-5}} \quad \dots\dots \text{シス}$$

このとき、 $\{T_n\}$ について、

$$T_n = \frac{4^n}{3} - n - \frac{4}{3} \quad \text{つまり、} \quad 4^n = 3T_n + 3n + 4$$

であるから、これを $(*)$ 、すなわち、

$$T_{n+1} = T_n + 4^n - 1$$

に代入すると、

$$T_{n+1} = T_n + (3T_n + 3n + 4) - 1$$

すなわち、 $\{T_n\}$ は、漸化式

$$T_{n+1} = 4T_n + 3n + 3 \quad (n=1, 2, 3, \dots) \quad \dots\dots②$$

……セ, ソ, タ

を満たす。

よって,

$$\begin{aligned} b_{n+1} &= \frac{a_{n+1} + 2T_{n+1}}{n+1} \\ &= \frac{n(a_{n+1} + 2T_{n+1})}{n(n+1)} \\ &= \frac{\{4(n+1)a_n + 8T_n\} + 2n(4T_n + 3n + 3)}{n(n+1)} \quad (①, ②より) \\ &= \frac{4(n+1)a_n + 8(n+1)T_n + 6n(n+1)}{n(n+1)} \\ &= 4 \cdot \frac{a_n + 2T_n}{n} + 6 \end{aligned}$$

すなわち,

$$b_{n+1} = 4b_n + 6 \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

……チ, ツ

これを,

$$b_{n+1} + 2 = 4(b_n + 2)$$

と変形すると, 数列 $\{b_n + 2\}$ は初項 $b_1 + 2 = -3$, 公比 4 の等比数列であるから,

$$b_n + 2 = -3 \cdot 4^{n-1} \quad \text{すなわち, } b_n = \underline{\underline{-3 \cdot 4^{n-1} - 2}} \quad (\dots\dots\underline{\underline{③}})$$

……テト, ニ

……ナ

以上より,

$$b_n = \frac{a_n + 2T_n}{n} \quad \text{すなわち, } a_n = nb_n - 2T_n$$

に $\{b_n\}$, $\{T_n\}$ の一般項を用いて,

$$\begin{aligned} a_n &= n(-3 \cdot 4^{n-1} - 2) - 2 \cdot \left(\frac{4^n}{3} - n - \frac{4}{3} \right) \\ &= -3n \cdot 4^{n-1} - \frac{2 \cdot 4^n}{3} + \frac{8}{3} \\ &= \underline{\underline{\frac{-(9n+8) \cdot 4^{n-1} + 8}{3}}} \end{aligned}$$

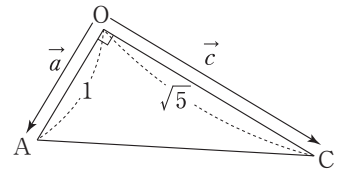
……又, ネ, ノ, ハ, ヒ

第4問

(1) $\vec{a} \cdot \vec{c} = 0$ より, $\angle AOC = \underline{90^\circ}$ ……アイ

であるから, $\triangle OAC$ の面積は,

$$\frac{1}{2} OA \cdot OC = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \sqrt{5} = \underline{\frac{\sqrt{5}}{2}}$$
 ……ウ, エ



(2) $\overrightarrow{BA} \cdot \overrightarrow{BC} = (\vec{a} - \vec{b}) \cdot (\vec{c} - \vec{b})$
 $= \vec{a} \cdot \vec{c} - \vec{a} \cdot \vec{b} - \vec{b} \cdot \vec{c} + |\vec{b}|^2$
 $= 0 - 1 - 3 + (\sqrt{3})^2 = \underline{-1}$

……オカ

また,

$$|\overrightarrow{BA}|^2 = |\vec{a} - \vec{b}|^2 = |\vec{a}|^2 - 2\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2 = 1^2 - 2 \cdot 1 + (\sqrt{3})^2 = 2$$

より,

$$|\overrightarrow{BA}| = \underline{\sqrt{2}}$$
 ……キ

さらに,

$$|\overrightarrow{BC}|^2 = |\vec{c} - \vec{b}|^2 = |\vec{c}|^2 - 2\vec{b} \cdot \vec{c} + |\vec{b}|^2 = (\sqrt{5})^2 - 2 \cdot 3 + (\sqrt{3})^2 = 2$$

より,

$$|\overrightarrow{BC}| = \underline{\sqrt{2}}$$
 ……ク

これらを

$$\overrightarrow{BA} \cdot \overrightarrow{BC} = |\overrightarrow{BA}| |\overrightarrow{BC}| \cos \angle ABC$$

に用いて,

$$\cos \angle ABC = \frac{\overrightarrow{BA} \cdot \overrightarrow{BC}}{|\overrightarrow{BA}| |\overrightarrow{BC}|} = \frac{-1}{\sqrt{2} \cdot \sqrt{2}} = -\frac{1}{2}$$

よって,

$$\angle ABC = \underline{120^\circ}$$
 ……ケコサ

である。さらに, $AD \parallel BC$, $AB = CD$ より, 四角形 ABCD が等脚台形であることから,

$$\angle BAD = \angle ADC = \underline{60^\circ}$$
 ……シス

となる。右図のように E, F をとると,

$$AE = \frac{\sqrt{2}}{2} = \frac{1}{2} BC, \quad EF = BC, \quad FD = \frac{\sqrt{2}}{2} = \frac{1}{2} BC$$

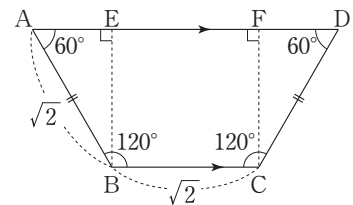
であるから,

$$AD = AE + EF + FD = \frac{1}{2} BC + BC + \frac{1}{2} BC$$

よって,

$$AD = 2BC$$

これより,



$$\underline{\underline{\overrightarrow{AD}=2\overrightarrow{BC}}} \quad \dots\dots \text{セ}$$

であるから、

$$\overrightarrow{OD}-\overrightarrow{OA}=2(\overrightarrow{OC}-\overrightarrow{OB}) \quad \text{より、} \quad \underline{\underline{\overrightarrow{OD}=\overrightarrow{a}-2\overrightarrow{b}+2\overrightarrow{c}}} \quad \dots\dots \text{ソ、タ}$$

また、四角形 ABCD の面積は、 $EB=\sqrt{2}\cdot\frac{\sqrt{3}}{2}=\frac{\sqrt{6}}{2}$ より、

$$\frac{1}{2}(AD+BC)\cdot EB=\frac{1}{2}(2\sqrt{2}+\sqrt{2})\times\frac{\sqrt{6}}{2}=\underline{\underline{\frac{3\sqrt{3}}{2}}} \quad \dots\dots \text{チ、ツ、テ}$$

(3) $\underline{\underline{\overrightarrow{OH}=s\overrightarrow{a}+t\overrightarrow{c}}}$

$\overrightarrow{BH}\perp\overrightarrow{a}$, $\overrightarrow{BH}\perp\overrightarrow{c}$ より、

$$\underline{\underline{\overrightarrow{BH}\cdot\overrightarrow{a}=0}} \quad \text{かつ} \quad \underline{\underline{\overrightarrow{BH}\cdot\overrightarrow{c}=0}} \quad \dots\dots \text{ト}$$

である。

$$\overrightarrow{BH}=\overrightarrow{OH}-\overrightarrow{OB}=\underline{\underline{s\overrightarrow{a}+t\overrightarrow{c}-\overrightarrow{b}}}$$

より、

$$\begin{cases} (s\overrightarrow{a}+t\overrightarrow{c}-\overrightarrow{b})\cdot\overrightarrow{a}=0 \\ (s\overrightarrow{a}+t\overrightarrow{c}-\overrightarrow{b})\cdot\overrightarrow{c}=0 \end{cases}$$

であるから、

$$\begin{cases} s|\overrightarrow{a}|^2+t\overrightarrow{a}\cdot\overrightarrow{c}-\overrightarrow{a}\cdot\overrightarrow{b}=0 \\ s\overrightarrow{a}\cdot\overrightarrow{c}+t|\overrightarrow{c}|^2-\overrightarrow{b}\cdot\overrightarrow{c}=0 \end{cases}$$

よって、

$$\begin{cases} s\cdot 1^2+t\cdot 0-1=0 \\ s\cdot 0+t\cdot(\sqrt{5})^2-3=0 \end{cases} \quad \text{より、} \quad \begin{cases} s=\underline{\underline{1}} \\ t=\underline{\underline{\frac{3}{5}}} \end{cases} \quad \begin{array}{l} \dots\dots \text{ナ} \\ \dots\dots \text{ニ、ヌ} \end{array}$$

これより、

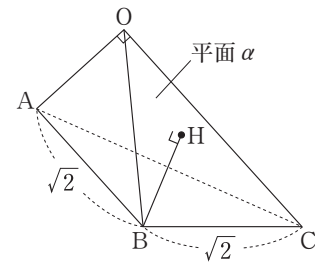
$$\underline{\underline{\overrightarrow{BH}=\overrightarrow{a}-\overrightarrow{b}+\frac{3}{5}\overrightarrow{c}}}$$

であるから、

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{BH}|^2 &= \left| \overrightarrow{a}-\overrightarrow{b}+\frac{3}{5}\overrightarrow{c} \right|^2 \\ &= |\overrightarrow{a}|^2+|\overrightarrow{b}|^2+\frac{9}{25}|\overrightarrow{c}|^2-2\overrightarrow{a}\cdot\overrightarrow{b}-\frac{6}{5}\overrightarrow{b}\cdot\overrightarrow{c}+\frac{6}{5}\overrightarrow{a}\cdot\overrightarrow{c} \\ &= 1^2+(\sqrt{3})^2+\frac{9}{25}\cdot(\sqrt{5})^2-2\cdot 1-\frac{6}{5}\cdot 3+\frac{6}{5}\cdot 0 \\ &= \underline{\underline{\frac{1}{5}}} \end{aligned}$$

よって、

$$|\overrightarrow{BH}|=\frac{1}{\sqrt{5}}=\underline{\underline{\frac{\sqrt{5}}{5}}} \quad \dots\dots \text{ネ、ノ}$$



したがって、(1)より、

$$\begin{aligned} V &= \frac{1}{3} \cdot \triangle OAC \cdot |\overline{BH}| \\ &= \frac{1}{3} \cdot \frac{\sqrt{5}}{2} \cdot \frac{\sqrt{5}}{5} \\ &= \underline{\underline{\frac{1}{6}}} \end{aligned}$$

……ハ, ヒ

(4) $AD \parallel BC$, $AD : BC = 2 : 1$

より、四角形 ABCD の面積は、

$\triangle ABC$ の面積の 3 倍

であり、四角形 ABCD を底面とみたときの四角錐 OABCD

の高さを h とすると、この四角錐の体積は、

$$\frac{1}{3} \cdot (3\triangle ABC) \cdot h = 3 \cdot \frac{1}{3} \cdot \triangle ABC \cdot h$$

これに $V = \frac{1}{3} \cdot \triangle ABC \cdot h$ を用いると、

$$(\text{四角錐 OABCD の体積}) = \underline{\underline{3V}}$$

……フ

さらに、

$$3V = \frac{1}{3} \times (\text{四角形 ABCD}) \times h$$

より、

$$3 \cdot \frac{1}{6} = \frac{1}{3} \cdot \frac{3\sqrt{3}}{2} \cdot h$$

よって、

$$h = \frac{1}{\sqrt{3}} = \underline{\underline{\frac{\sqrt{3}}{3}}}$$

……ヘ, ホ

